日本台湾学会第 14 期第 2 回会員総会〔抄録〕

日時　：　2026 年 5 月 23 日（土）17:25－17:55
場所　：　立教大学 池袋キャンパス 14 号館地下 DB01 教室 ＋ オンライン（Zoom）
司会　：　劉彦甫
議長　：　西村一之
書記　：　三野和惠

司会の劉彦甫会員が議長及び書記の立候補を求めたところ、立候補の申し出がなかったため、 西村一之会員が議長に、三野和惠会員が書記に指名され、承認された。

川上桃子第 14 期理事長挨拶

業務報告

１．各業務担当

（１）五十嵐総務担当理事

総会時の会員数について報告がなされた。2026 年 5 月 22 日現在の会員数は 449 名（一般会員 378 名、学生会員 48 名、シニア会員 23 名）。過去 1 年間で入会 24 名、シニア会員への移行 1 名、退会 28 名、総数としては 4 名減となる。

（２）明田川会計財務担当理事

2025 年度の会計決算の総括として、会費納入率 90.2%、純利益と純支出の差し引きが 492,778 円であったことが報告された。

（３）宮岡広報担当理事

ウェブサイト、ブログ、メール情報配信サービスの運用状況について報告された。メール情報配信サービスは前回総会から 44 回配信、ニュースレターは 2 回発行した。また、ニュースレターの使用言語について、今後、一部の記事において日本語以外の言語による掲載が認められることが説明された。

（４）赤松編集委員長

『日本台湾学会報』第 28 号では、シンポジウム原稿 7 本、論文 12 本、書評 4 本、エッセイ 1 本が掲載予定である旨が報告された。

（５）清水企画委員長

第 28 回学術大会には分科会企画 2 件、自由論題 18 件の応募があり、全て採用され

た。台湾文学学会会員からの応募はなかった。

（6）家永・冨田国際交流担当理事

対外発信強化プロジェクトとして、優秀論文の英訳を支援し、近日中に JCEAS（Journal of Contemporary East Asian Studies）への推薦を行う予定である。また、中央研究院台湾史研究所との交流に関する覚書の締結に向けた検討が進められていることが報告された。

（7）山﨑定例研究会担当理事

2025 年度の定例研究会は、関東部会で 15 回、関西部会で 1 回が開催された。また、定例研究会の新企画として「台湾研究ブックサロン」を開催した。

議題

1．2025 年度決算案

○　明田川第 14 期会計財務担当理事より、2025 年度決算案が報告された。2025 年度は 66 万 8000 円の黒字。全体に健全・安定的な運営ができている。

○　下野寿子監査から会計監査報告がなされた。2025 会計年度の決算報告書及び会計資料を、池上寛会員とともに監査を行った結果、適正であることが確認されたことが報告された。

○　決算案は、異議なく原案通り承認された。

2．2026 年度予算案（明田川理事）

2026 年度予算案について、第 14 期会計財務担当の明田川理事より説明が行われ、異議なく原案通り承認された。

3．電子投票の導入に伴う規約改定

理事選挙の電子投票導入について、理事選挙電子化検討プロジェクト委員長の山﨑直也理事より日本台湾学会選挙規定第 3 条の修正が提案され、質疑応答を経て原案通り承認された。

4．会計監査の選任

川上理事長より、会計監査の推薦があった。現在の池上寛会員に加え、宮畑加奈子会員が 2027 年度までの 2 年任期で推薦され、異議なく原案通り承認された。

5．選挙挙管理委員の選任

第 13 期選挙管理委員長池上寛会員より、第 14 期選挙管理委員の委員長として國府俊一郎会員、委員として日暮トモ子会員、三文字昌也会員が推薦され、異議なく承認された。

６．第 29 回学術大会について

第 29 回学術大会については、田上智宜会員が実行委員長となり、2027 年 5 月 22 日と 23 日、または 29 日と 30 日に熊本学園大学（熊本県）において開催することが報告された。

７．その他

○　赤松編集委員長より、学会報への投稿が呼びかけられた。

○　清水企画委員長より、来年度大会に向けた呼びかけが行われた。

以上